

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭62-43384

⑤Int.Cl.<sup>4</sup>B 62 K 11/02  
B 60 K 11/04  
13/04

識別記号

庁内整理番号

7535-3D  
E-8108-3D  
B-8108-3D

④公開 昭和62年(1987)2月25日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

④発明の名称 自動3輪車におけるラジエータの排風ダクト装置

②特 願 昭60-181651

②出 願 昭60(1985)8月21日

⑦発明者 築地 保彦 朝霞市東弁財2-13-1 弁財ハイツ202

⑦発明者 猪狩 武男 新座市新座3-4-8-203

⑦出願人 本田技研工業株式会社 東京都渋谷区神宮前6丁目27番8号

⑦代理人 弁理士 北村 欣一 外2名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

自動3輪車におけるラジエータの排風ダクト装置

## 2. 特許請求の範囲

前輪の1個と乗員用シートとを備える前部車体と、エンジンと左右1対の後輪とを備える後部車体とで構成される自動3輪車であつて、該後部車体の前部にラジエータを左右1対に設け、該各ラジエータの背面側に配置した排風ダクト本体を介して該各ラジエータからの排風を該後部車体の後方に排出するようにしたもののにおいて、該排風ダクト本体の該エンジンの配置側の側壁に該エンジンの横側部近傍に位置させた透孔を形成したことを特徴とする自動3輪車におけるラジエータの排風ダクト装置。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、前輪の1個と乗員用シートとを備える前部車体と、エンジンと左右1対の後輪と

を備える後部車体とで構成される自動3輪車におけるラジエータの排風ダクト装置に関する。

(従来の技術)

従来、この種自動3輪車の場合には、空冷式のエンジンを搭載するを一般とする。

(発明が解決しようとする問題点)

ところで、車両の大型化に伴つて排気量の比較的大きなエンジンを搭載する場合には、エンジン騒音の低減が図れ、又エンジン温度のコントロールが簡単に行なえて有利な水冷式のエンジンを搭載することが望まれる。この場合、走行風がラジエータに十分作用し冷却性能の向上が図れるように、後部車体の前側部にラジエータを左右1対に設け、該各ラジエータの背面側に配置した排風ダクトを介して該各ラジエータからの排風を該後部車体の後方に排出するようにすることが考えられるが、該後部車体の前側には前部車体が存していて配置できるラジエータの大きさは限られてしまい、従つて如何にしてエンジンを効率良く冷却するかが問題となる。

本発明は、排風ダクト内を流れるラジエータからの排風流を利用してエンジン回りの熱気をエンジンルーム外に排出し、エンジンの冷却性の向上が図れるようにした排風ダクト装置を提供することをその目的とする。

(問題点を解決するための手段)

本発明は、かかる目的を達成すべく、前輪の1個と乗員用シートとを備える前部車体と、エンジンと左右1対の後輪とを備える後部車体とで構成される自動3輪車であつて、該後部車体の前部にラジエータを左右1対に設け、該各ラジエータの背面側に配置した排風ダクト本体を介して該各ラジエータからの排風を該後部車体の後方に排出するようにしたものにおいて、該排風ダクト本体の該エンジンの配置側の側壁に該エンジンの横側部近傍に位置させた透孔を形成したことを特徴とする。

(実施例)

本発明を図示の実施例につき説明する。

図面で(1)は前輪(2)の1個と乗員用シート(3)と

ここで本発明によれば、排風ダクト本体(9)のエンジン(5)の配置側の側壁(9d)に該エンジン(5)の横側部近傍に位置させた透孔(12)を形成するもので、これを詳述するに図示のものでは、該排風ダクト本体(9)の各枝管(9a)の該エンジン(5)の配置側の側壁(9d)にルーバー形の透孔(12)を夫々形成するようにした。

(作用)

排風ダクト本体(9)のエンジン(5)の配置側の側壁(9d)に該エンジン(5)の横側部に位置させた透孔(12)を形成することにより、該排風ダクト本体(9)内を流れるラジエータ(8)からの排風流によるエセクタ作用によつて、該エンジン(5)回りの熱気が該透孔(12)から引き出されて該排風ダクト本体(9)を介して後部車体(4)の後方に排出され、従つてエンジンルーム内にエンジンからの熱がこもらない。

尚、上記実施例のように、後部車体(4)の後側壁のエアスボイラ(10)の下側に形成した出口(11)に排風ダクト本体(9)の流出口(9o)を臨ませることに

を備える前部車体、(4)はエンジン(5)と左右1対の後輪(6)(6)とを備える後部車体を示し、該前部車体(1)と該後部車体(4)とをローリングジョイント(7)を介して連結し、全体として所謂揺動式の自動3輪車を構成した。そして、該後部車体(4)の前側部にラジエータ(8)を左右1対に設け、該各ラジエータ(8)の背面側に配置した排風ダクト本体(9)を介して該各ラジエータ(8)からの排風を該後部車体(4)の後方に排出するようにした。

更に詳述するに、該排風ダクト本体(9)は、第1図及び第2図に示す如く、該各ラジエータ(8)の背面から該エンジン(5)の横側部を辿つて後方にのびる枝管(9a)(9a)が該エンジン(5)の後方において互に合流する平面視略コ字形形状に形成されるものとし、該排風ダクト本体(9)の前側の流入口(9b)(9b)を夫々該各ラジエータ(8)の背面とその後側の流出口(9o)を該後部車体(4)の後側壁のエアスボイラ(10)の下側に形成したルーバー形の出口(11)とに各臨ませるようにした。

図面で(8a)はラジエータファンを示す。

より、該エアスボイラ(10)の下側部に生じる負圧によつて該排風ダクト本体(9)内の排風が引き出され、より一層のラジエータ(8)の冷却性の向上やエンジン(5)回りの熱の排出作用の向上が図れて有利である。

(発明の効果)

このように本発明によれば、排風ダクト本体のエンジンの配置側の側壁に該エンジンの横側部に位置させた透孔を形成するもので、該排風ダクト本体内を流れる排風流によるエセクタ作用によつてエンジン回りの熱気を該透孔を介して引き出して後部車体の後方に排出し、エンジンの冷却性の向上を図ることができ、又排風ダクトの側壁に透孔を形成するだけで足り構造簡單且つ安価に得られる効果を有する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明装置の1例を具備する自動3輪車の一部縦断側面図、第2図はその要部の縦断平面図、第3図は全体の斜視図である。

(1)……前部車体 (2)……前輪

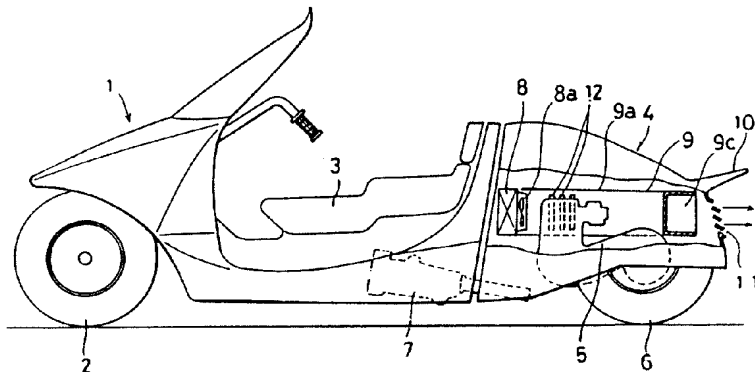
- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| (3) …… 乗員用シート   | (4) …… 後部車体    |
| (5) …… エンジン     | (6)(6) …… 後輪   |
| (8)(8) …… ラジエータ | (9) …… 排風ダクト本体 |
| (9d)(9d) …… 側壁  | (12)(12) …… 透孔 |

特許出願人 本田技研工業株式会社

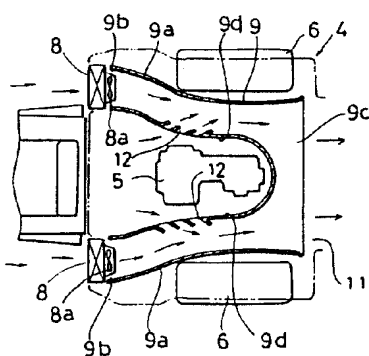
代理人 北村 欣

外2名

第1図



第2図



第3図

